

小高志

2017年1月

No.8

若いちから





高校生が市長へ 小高の復興に向けたアイデアを 公開プレゼンテーション

発表は二部構成で行われ、
第一部は今年度の活動報告、
第二部は班ごとの提案という流れで
進められました。

1班の
提案

2班の
提案

自分たちのやりたい...	ゲームイベント	冬っかけ
お手伝い 目的 直接お話をすることで、今の若い人たちに、自分たちも直接見て先を教えるという目的。 内容 高野さんのお話を聞いて、自分たちも直接住人の話を聞きたいと思ふから。	内容 TVゲームなど若い人から、カクゲームなど年配者に年齢層を上げる。 目的 小中学生が来たり、TVゲームのイベントなど若い若い人たちの小高への印象を変える。	内容 災害公営住宅に住んでいる方が若い人たちの声が届けるだけで元気が出ると思ふから。
部活動イベント	冬っかけ	冬っかけ
冬っかけ 高野さんの方に、この提案を伝えるために、作成して下さったから。 目的 高野さんの方に、今の高校を知ってもらい、若い人たちの交流をさらに深める。	内容 文化部のステージ発表 小高に住んでいる人々に小高以外で行われているイベントを交えてもらったり、住民の方々の部活動体験・工作教室	冬っかけ 島尻前にホビー施設、学校の情報誌を貼ったり、住民の方々のことを書き込むことできる。 目的 小高の外から来た人に、小高で行われていることをすぐに知ってもらうため、地元の人々のイベントの広告などを貼る。

お年寄りのサポートや
広報の仕掛けづくりの提案です。

3班の
提案

僕たちからの提案

1. 高校生がデザインした光るベンチ、光るゴミ箱を設置。
2. 空地进行を広場として利用し、移動販売の屋台を誘導。
3. 広場を利用した農園。
4. 空地に遊具を設置。(他にない遊具)
5. 提案を一つのマップまとめ、配布・掲示。

来年度から自分たちも通う高校までの通学路に
にぎやかにするための提案です。



高島家蔵の活用提案として、
屋上を活用した“おしゃれな”カフェと
夜間利用の提案です。

平成28年11月12日(土)午後1時〜午後3時、高校生による小高復興のための市長提案の公開プレゼンテーションが開催されました。Live Lines Odaka(通称・LLO)に所属する市内高校生11名から、今年度実施したフィールドワークやインタビュー調査に基づいて、高校生ならではの小高の復興に関するアイデアが提案されました。大きく三つのテーマについて、班ごとに考えた提案内容を、ここではいくつか抜粋してご紹介します。

一班は、高齢者世帯の暮らしのサポートや、駅前にメッセ・ジボードを設置して自由に書き込めるようにするという広報の仕掛け、部活動を地域の人と一緒に楽しむ場づくりを提案しました。二班は、増加する空家の活用提案として、高島家蔵の活用方を考えました。蔵の造りを十分に活かした、おしゃれなカフェや夜間利用の仕方を提案しました。

三班は、来春から始まる小高産業技術高校までの通学路をにぎやかにするべく、学んだ技術を使ってつくる光るベンチや空地の活用、情報のマップ化等を提案しました。会場からは、「小高で高校生の発表が聞けて一歩前進した、感動した」、「小高の将来を本気で一生懸命考えている高校生に感謝したい、後輩育成に期待したい」といったお声をいただきました。詳しい提案内容は小高復興デザインセンターにてご覧いただけます。

小高復興デザインセンターの日々

さくらサロン、 始まりました

「小高に帰ってきたけれど、日中は家族が働きに出ていて一人ぼっちでさみしい…」という方は少なくないと思います。12月に初回を迎えた「さくらサロン」も、そうした一声から活動が始まりました。場所は、小高老人福祉センター。和室や大部屋は予約をすれば無料で使うことができます。福島県立医科大学の先生や保健師さんも入り、まちうちだけでなく、集落部からの参加者もいます。基本的に第1・3木曜日の開催です。ぜひ一度参加してみてください。



福島県立医科大学の先生や保健師さんも関わっていて、これから楽しみです。

十人十色な来館者、 協働のカタチ

平成28年7月に解除を迎えたばかりの小高には、今も多くの方が視察や支援に訪れており、小高復興デザインセンターにもご来館いただいています。地元の方には、「調子はどうだ?」と、リピートして来てくださる方もいます。センターでは、ここで得られた様々なご縁を大切に、力を合わせれば実現できることを取り組んでいます。例えば、おだかぶらっとほーむさんや市教育委員会と共に「小

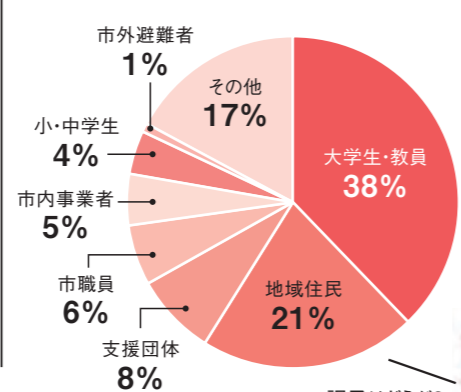
部会も 動き出しています

小高復興デザインセンターで取り組んでいることの一部を紹介しましょう。私たちが考える部会は、「つながり部会」「まちなか部会」「生業部会」「災害リスク部会」です。

小高復興デザインセンターで考える部会

- つながり部会**
日常生活の足被災に関連する分断を結び直す
- まちなか部会**
空き家・空き地 歴史的建造物活用 二地点居住
- 災害リスク部会**
小高で暮らすための放射能リスク対応
- 生業部会**
新たな生業の創造 事業再開・継続

小高復興デザインセンターの来館者層



高大蛇伝説まちあるき」を実施したり、大学のネットワークを活かし、各部会に専門家の方をお呼びしたりというように、センターの強みを活かすことのできる活動に特に力を入れています。

調子はどうだ?



小高の復興に向けた定例会



様々な立場の方にお集まりいただき、小高の復興に向けた小高復興デザインセンターでの活動全般に、ご助言をいただいています。

活動の蓄積は、小高の復興に欠かせません。センターでは一つひとつの活動を大事に考えています。同時にそれらの蓄積した先が適切な方向になっているのか、大所高所から冷静に眺める必要もあります。

そこで、定期的に、センターでの活動全般について報告し、ご意見をいただく機会として定例会を設けています。

行政区長会、小高区地域協議会、社会福祉協議会、小高商工会、ふくしま未来の皆様にお集まりいただき、日々の業務でもお感じのことなど、非常に貴重なご意見をいただいています。

これまでに二回開催しましたので、ご報告します。

第1回

田林副市長の挨拶に続き、センターの掲げる復興像や「高校生による小高区への提案事業」の説明、「まちなか」「生業」「つながり」「災害リスク」の各部会の活動方針を説明しました。

「各部会の活動の一つの小高復興のランドデザインとすること、それを実現するロードマップが必要である」「自助、共助、公助、さらには互助といった考え方が大切」「実際にやってみないとわからない。失敗を恐れずにやってみるべき」「協働して取り組むことが重要」などのご意見をいただきました。

また、放射線リスクに関する情報提供やまちなかに魅力的な空間をつくって小高らしい風景にしていくこと、第一次産業の後継者を増やそうといった提案もいただきました。

(平成28年10月27日、午前10時から12時)

第2回

小高の復興についての骨太の議論から、具体的な取り組みに至るまで多様な議論がありました。

「自分でできることは自分でやる、そうやってでも解決できないところはどこか。それを明らかにして、どうやったら解決できるか、そのために越えるべき課題は何か。その全体像を提案してほしい。そうすれば、小高の方々ももっと一緒に頑張って議論を深められる」というご意見をいただき、全員で共有しました。

農地を耕作放棄地にならない方法や外部団体なども含む担い手の確保、放射線リスク教育、若い方々の多様な住まい方を支える住宅などが話題となりました。

今後も勉強会を継続的に開催すべき、とのご意見もいただきました。

(平成28年12月19日、午前10時から12時)

活動報告

小高の復興を支える支柱を目指して まちなか部会



まちなか部会では、駅前通りを中心とした「まちなか」の復興に向けて、まちなかで活動される住民の方、行政区長の方々、行政の担当部署などが協働して、話し合いを行っています。

第1回

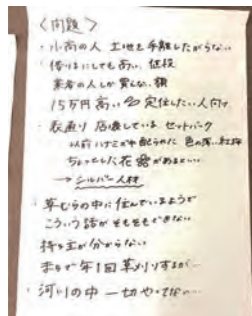
まちなか部会の様子



センターから、先進事例の紹介を行いました

第1回目のまちなか部会では、「空き地・空き家の活用」と「歴史的建造物の保全・活用」について、班ごとに分かれて議論しました。

(平成28年11月25日)



身近な課題とその解決方法について議論しました

第2回

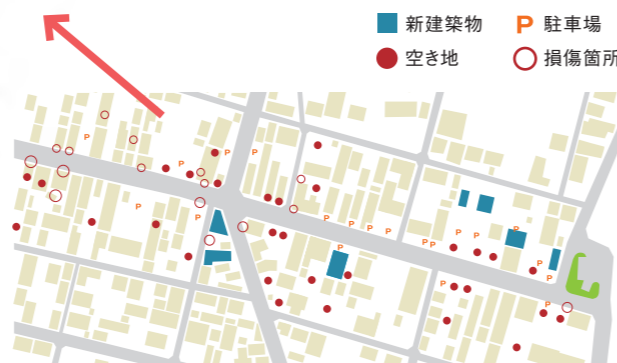
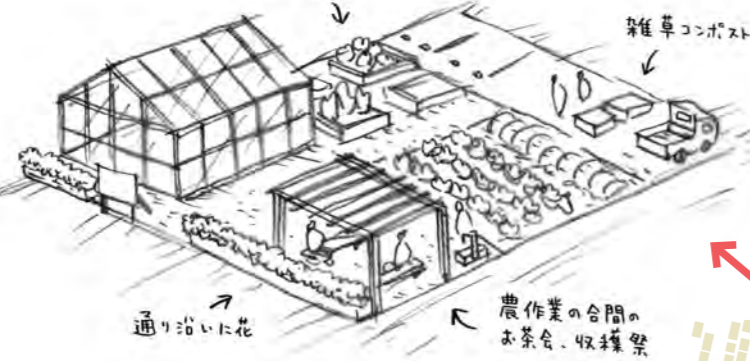
まちなか部会の様子

第2回では、「まちなかの課題と資源」と「実践プロジェクト」について、センターからの提案をたたき台として、全員で議論しました。

(平成28年9月6日)

まちなか菜園プロジェクト
まちなかの空き地を使って、みんなで使える菜園を作る

調査結果や提案をたたき台として、意見を出し合いました



調査の報告と実践プロジェクトの提案を行いました

災害リスク部会



放射線による影響について、
私たちは適切に対応する必要があります。
避難指示解除を受けて、
これから小高で、
どのように暮らしていけば良いのでしょうか。

「小高で暮らすための コラボ講話」

平成28年11月に、「小高で暮らすためのコラボ講話」と題し、2人の専門家を一度お招きして講演をいただき、そのあとに気軽に質問や議論を交わしました。合わせて約90人の方にご参加いただきました。コラボ講話の詳細はウェブサイトでもご覧いただけます。

第1回

「原発被災と 生活のリスク」

第1回目は、福島県立医科大学の村上道夫准教授と東京大学の森口祐一教授をお招きしました。

村上先生からは、原発事故によって生じた様々なリスクを把握し、対処していく重要性が指摘されまし

第2回

「小高での暮らし」

参加された方々からは、産業も含めたこれからの地域の在り方、放射線防護の基準値、小高の川の除染の実態、道路脇に放置されたゴミの片付け、専門家の意見のばらつき等について、質問、議論がありました。

第2回目は、東京大学の児玉龍彦教授とNPO法人チェルノブイリ救援・中部理事の河田昌東先生をお招きしました。

河田先生は、平成23年4月から南相馬市に連れて行きます。南相馬放射能測定センター(とどけ鳥)を主とした市民によるモニタリング活動を通じて明らかになった、小高の空間線量と作物の汚染について話されました。汚染されやすい作物とされにくい作物があること、農作物栽培時の注意点、作物の放射線量は必ずしも単調に減少し続けているわけではないこと等を指摘されました。今後も測定が必要ですよ。

参加された方々からは、小高で農業を営む上での課題、焼却炉や廃棄物運搬についての不安、住民の声が届く仕組みづくり等について、質問がありました。

つながりの構築・再生に向けて つながり部会



つながり部会では、
震災と原発事故により失われた、
様々なつながりの再生、または新たな形で構築するため、
課題の解決に向けた実践的な活動の
サポートや仕組みを検討しています。

第1回

第1回つながり部会は、災害公営住宅を中心とした小高での生活をテーマに開催しました。参加者の方から、災害公営住宅の住民間のつながりや生活環境に関する不安、帰還された方の地域の足等の課題が出されました。また、千葉大学の鈴木規道先生から健康づくりの取り組みに関する講話をいただきました。センターからは、交流の場として「共同菜園」の提案を行いました。提案に対して、参加者の皆様から、雰囲気づくりや運営等に関するアイデアをいただきました。

第2回

第2回つながり部会は、つどいの場づくりをテーマに開催しました。福島県立医科大学の末永カツ子先生から、サロンの意義や小高で現在開催されている事例のお話がありました。また、社会福祉協議会の方や震災後に行政区でサロンを立ち上げた住民の方から、サロンの現状についてお話いただきました。サロンなどのつどいの場づくりに向けては、利用できる場所や移動手段の確保、支援の体制や制度、開催状況の周知等が課題であることが共有されました。

今後は、これまで議論した内容について、支援の仕組みづくりなどの検討を進めていくとともに、地域の足の確保といったテーマについても、検討を行っていきます。

平成28年10月26日、12月15日に、それぞれ、第1回・第2回のつながり部会を開催しました。
各回とも、社会福祉協議会、地域の生活サポートや復興支援に関わるNPO等の各団体、地域住民の皆様などに加えて、各テーマに関する専門家の方にもご参加いただき、活発な議論を行っています。



第1回のグループ議論では様々なアイデアが出されました



第1回：グループで出た課題やアイデアを共有しました



小高のサロンの現状が共有されました



小高の夜を彩る イルミネーション



今後の予定

第1回 なりわい部会のお知らせ

2月中旬に「農業・農地の再生」について部会を開催します。小高で農業したい、農地をなんとかしたい、小高の生業を考えたい方、ぜひご参加ください!

まちなか菜園 プロジェクト

みんなで使える共同菜園を
つくろうとしています!
一緒に菜園づくりを考えてくださる
メンバーを募集しています!

小高志を
リニューアルしました!
センターでの活動の
アイデア大募集中です!

小高復興デザインセンター

2016年夏、設立しました。住民・行政・外部をはじめとして、小高とつながりたいみんなが協働し、実践していく場です。

〒979-2124 南相馬市小高区本町2-89 旧社協会館
TEL: 0244-44-5100

Web: <http://td.t.u-tokyo.ac.jp/odaka/>
<https://www.facebook.com/OdakaRC/>